

2021

大学院医学系研究科修士課程(看護学専攻)のご案内

Master's Degree Program of Graduate School of Nursing

あなたが光輝くために専門職としてのキャリアアップ



国立大学法人

浜松医科大学

アドミッション・ポリシー

Admission policy

豊かな学識と優れた技能を有し、社会の要請に応え得る、高度な専門性と実践能力を備えた看護のプロフェッショナルを育成するために、以下の人材を求めています。

◎ 求める学生像

1. 科学的・論理的思考ができ、更に視野を広げたい人
2. 新たな課題を自ら求め、創造的・先駆的研究を行う意欲を持つ人
3. 倫理観と人間性をより深く、指導的役割を果たす意欲を持つ人
4. 人類の健康と福祉に貢献し、国際的に活躍を目指す人

◎ 入学者選抜の基本方針

「求める学生像」に沿った人材を、大学卒業だけでなく看護関連業務の実務経験を有する社会人にも積極的に求めています。

修士論文コース・高度看護実践コースでは、英語、小論文、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

助産師養成コースでは、専門科目の学力検査、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

カリキュラム・ポリシー

Curriculum policy

◎ 教育の内容・方法

1. 修士論文コースは、看護学に関する基本的な知識と、健康科学に関する専門的な知識を土台とし、その上に基礎看護学、成人・老人看護学、母子看護学、地域・精神看護学の四つの専門分野に分かれる。それぞれの分野における高度な知識と研究能力を育成できるよう授業科目を設けている。
2. 高度看護実践コースは、特定の専門看護分野において、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護を提供する専門看護師として、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を果たすことができる卓越した看護実践能力を身につける授業科目を設けている。
3. 助産師養成コースは、周産期医療・母子保健の発展に貢献できる研究者及び教育者となる素地を備え、さらに高度実践力及びマネジメント力を備えた指導的立場に立てる人材の育成をめざし、共通科目、助産学基礎科目、高度実践科目及び研究に関する科目を設けてカリキュラムを構成している。

◎ 履修指導、研究指導の方法

高度な知識・技術の取得や研究方法を学ぶために、指導教員が直接、履修や研究の指導を行い、必要と認められた場合には副指導教員も配置します。

ディプロマ・ポリシー

Diploma policy

大学院医学系研究科(看護学専攻)は、医療技術の高度化、人口の高齢化に伴う社会的ニーズの増大及び生活の質を重視する価値観の広がり、人々の質の高いケア等に対応できる看護実践者の育成を行います。このため、修了時まで以下に力を備えた学生に学位を授与します。

1. 高度な専門知識と技術の向上開発を図る能力

現在および将来の保健・医療・福祉分野におけるさまざまな課題を解決するために、研究や理論に裏付けられた高度な問題解決能力。

2. 専門性の高い教育的能力

変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー・教育者として、専門性の高い教育的能力。

3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力

現在の看護学や看護実践をさらに発展させるための専門性と倫理観に基づいた実践能力と各専門分野における科学的探究能力

4. 新しい課題にチャレンジできる能力

最新の研究や医療の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジできる能力。

5. 文化的、社会的背景を踏まえた社会貢献能力

グローバル化する保健医療福祉における健康問題を見据え、国内外で広く社会に貢献できる能力

働きながら学ぶ学生を支援するプログラム

長期履修制度

学ぶ期間を延ばせる

2年分の授業料で、履修年限を延長して、修了に必要な単位(30単位以上)を3~4年間で修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。ただし、助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



昼夜開講制

一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルにあわせて無理のないペースで学べます。



浜松医科大学大学院修士課程(看護学専攻)は、現在臨床の場で活躍している看護師や保健師等も気軽に学べる場です。カリキュラムも「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて自由に組み立てられるようにしています。

図書館

図書館では、看護学分野の専門書をはじめ、研究活動を支援するための図書、学術雑誌、AV資料などを揃えています。



納付金

入学料/282,000円
授業料/年額:535,800円

(前期分:267,900円)
(後期分:267,900円) 令和2年度実績



専門分野、研究領域及び授業科目一覧

基礎看護学

健康科学領域

解剖学、生理学、微生物学、薬理学、免疫学などの基礎的な知識と研究方法を学びます。これにより、科学的思考を養うことで、看護学のさらなる発展に寄与する人材を育成したいと考えています。

基礎看護学領域

基礎看護学に関する研究方法を学びます。ゼミナールでは、ディスカッションを通して、自分の看護実践を見つめ直すことで、看護の質の向上に寄与する研究指導を行っていききたいと考えています。

P4

成人・老人看護学

成人看護学領域

慢性看護、がん看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護、感染看護等に関する看護の質の向上を目指した実践と研究課題を追究しています。楽しく切磋琢磨できるゼミの運営を心がけています。

老人看護学領域

多様な状況にある高齢者と家族の健康に関する諸問題を理解し、基本的な研究能力を修得します。これにより、高齢者の健康障害に関連した社会のニーズに対応できる実践家及び看護研究者の育成を目指しています。

P5

母子看護学

母性看護学領域

関連領域の最新の課題をとりあげ、知識、技術、自己の価値観、倫理性を高める学習を行います。研究の基礎から論文の作成に至るまで、科学的根拠に基づいて丁寧に教授します。

小児看護学領域

小児看護の現状と課題を見据え、小児看護関連の理論の基礎的理解を目指して、小児がん看護、発達障害児の看護等現在のトピックを交えながら学習します。また、小児看護学領域を中心とした看護教育や対人関係の基礎的理論を学習します。「学ぶ楽しさ」を実感してください。

P6

地域・精神看護学

地域看護学領域

地域看護学の概念・理論を教授し、効果的な活動方法を探求します。行政及び産業における健康問題を解決するためのエンパワメント能力の育成、また地域ケアシステムにおける在宅療養に関する保健医療福祉の課題に対する論理的思考を深め、質的・量的研究方法について具体的に丁寧な指導を行います。

精神看護学領域

悩みを抱える人、心を病む人、発達過程にある人等、さまざまな対象におけるメンタルヘルス上の課題に焦点をあて、現状と関連要因を究明し、効果的な援助方法を明らかにするために研究を進めていきます。

P7

P8 高度看護実践コース(老年看護学)

P9 助産師養成コース

P10 修士生のことば

授業科目一覧(令和3年度)				
授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	摘要	
共通科目	看護研究	1	2	修論コース 4単位以上を選択
	看護教育論	1	2	
	看護理論*1	1	2	
	看護倫理*1	1	2	
	看護政策論	1	2	
	看護管理	1	2	
	看護コンサルテーション論	1	2	
	フィジカルアセスメント	1	2	
	病態生理学	1	2	
	臨床薬理学	1	2	
	免疫学	1	2	
病理学	1	2		
基礎看護学	基礎看護学特論*1	1	4	修論コース (1)専門分野のうち主領域の特論及び演習の8単位を選択 (2)(1)で選択した以外の特論4単位以上を選択 (3)特別研究14単位を必修
	基礎看護学演習	1・2	4	
	健康科学特論	1	4	
	健康科学演習	1・2	4	
成人・老人看護学	成人看護学特論	1	4	
	成人看護学演習	1・2	4	
	老人看護学特論	1	4	
	老人看護学演習	1・2	4	
母子看護学	母性看護学特論	1	4	
	母性看護学演習	1・2	4	
	小児看護学特論	1	4	
	小児看護学演習	1・2	4	
地域・精神看護学	地域看護学特論	1	4	
	地域看護学演習	1・2	4	
	精神看護学特論	1	4	
	精神看護学演習	1・2	4	
特別研究	2	14		

*1 基礎看護学特論には、看護理論2単位及び看護倫理2単位を含む(基礎看護学特論を履修しようとする者は、看護理論、看護倫理を選択できない)。

健康科学領域

Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる生理学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



永田 年 山下 寛奈

研究内容

感染免疫学部門 結核菌等の細胞内寄生細菌に対する免疫応答、バイオフィルム形成細菌の殺菌に関する研究をおこなっています。

形態機能学部門 動物の組織や培養細胞などを用いて、ニューロンの分化、皮膚の上皮化に関する研究等を行っています。

教員の研究テーマ・主な業績

永田 年(教授)・・・微生物学、免疫学

- 1) Yokomizo T, Nagata T, et al. Perception of mutual aid and its related factors: a study of Japanese high school students. *BioSci Trends*, 14(6), 457-459, 2021.
- 2) 小山順子, 永田年. 循環器病棟看護師の歯周炎に関する知識・認識の現状. *日本口腔ケア学会誌*, 15 (1), 17-23, 2020.
- 3) Matsui Y, Nagata T et al.: Three-year prospective, observational study of central line-associated bloodstream infections in a 600-bed Japanese acute care hospital, *Am J Infect Control*, 43, 494-498, 2015.

山下 寛奈(准教授)・・・解剖学、生理学、組織学

- 1) Miura K, Yamashita K: Acoustic histology with specific dyes and antibodies. *Ultrasound Med Biol*: 45(12): 3279-3289. 2019.
- 2) Yamashita K, Mikawa S, Sato K: BMP3 expression in the adult rat CNS. *Brain Res* 1643: 35-50, 2016.

基礎看護学領域

Fundamental Nursing

基礎看護学領域では、看護技術や看護教育方法の創出、看護管理、看護倫理、様々な看護場面における心理的側面の検討等に関する質的・量的研究を通じ、看護学と看護実践の発展に寄与することを目指します。研究指導は、各自が興味・関心を持つテーマについて、関連論文の抄読・検討、研究計画の作成から研究の実施、関連学会での発表、論文作成まで、セミナーなどグループでのディスカッションを中心とし、学生の個別の事情に合わせて個人指導も行います。



長嶋 英里 青木 好美
片山 はるみ 村松 妙子

研究内容

看護学教育 看護学教育における様々な課題の解決に向け、看護の技能のアクティブラーニングなど、新たな教育方法の開発とその効果を検証する研究に取り組んでいます。

看護場面の心理的側面の検討 ケア従事者のコンピテンシーの抽出と教育プログラム作成、看護学生・看護職者のメンタルヘルスや中堅看護師のキャリア開発、それらに関連する尺度開発等、心理学の知識を応用した研究に取り組んでいます。

看護における倫理 看護職者に必要な倫理的能力の教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

片山 はるみ(教授)

- 1) 片山はるみ, 村松妙子: 看護実践における倫理的ケアのコンピテンシー評価票原案の作成, *日本看護倫理学会誌*, 13(1), 3-13. 2021, DOI: 10.32275/jjne.20200501.
- 2) 松本志保子, 片山はるみ: リハビリテーション看護コンピテンシー評価票の内容妥当性の検討, *日本看護管理学会誌*, 24(1), 104-112, 2020, DOI: 10.19012/janap.24.1_104.
- 3) 鎌田裕子, 片山はるみ: 高齢者施設で働く看護師のコンピテンシー, *日本看護管理学会誌*, 24(1), 133-140, 2020, DOI: 10.19012/janap.24.1_133.
- 4) Nagashima E, Katayama H: Creating a Draft Version of the Self-care Actions in Mental Health for Workers Inventory and Verifying its Content Validity, *Asian Journal of Human Services*, Vol. 17, 77-85, 2019, DOI: 10.14391/ajhs.17.77.
- 5) Aoki Y, Katayama H: Development of a draft Clinical Interpersonal Reactivity Index to evaluate empathy in nurses, *Asian Journal of Human Services*, vol. 16, 14-28, 2019, DOI: 10.14391/ajhs.16.
- 6) 根本香代子, 片山はるみ: 女性中堅看護師のレジリエンスに対する自尊感情と自己効力感の影響, *日本看護科学会誌*, 38, 89-96, 2018, 10.5630/jans.38.89.
- 7) Aoki Y, Kee E, Katayama H: Comparison of the factor structure of the Self-Harm Antipathy Scale and related demographic characteristics between Korea and Japan, *Asian Journal of Human Services*, 15, 66-75, 2018, 10.14391/ajhs.15.66.

村松 妙子(准教授)

- 1) 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生の倫理的感受性質問票(ESQ-NS)の有用性の検討, *日本看護倫理学会誌*, 13(1), 32-41. 2021. DOI.org/10.32275/jjne.19015
- 2) Muramatsu T, Nakamura M, Okada E, Katayama H, Ojima T: The development and validation of the Ethical Sensitivity Questionnaire for Nursing Students, *BMC Medical Education*, 19: 215, 2019, DOI: 10.1186/s12909-019-1625-8.
- 3) 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生が4年間の看護基礎教育の中で経験した倫理的問題場面とその対応, *日本看護倫理学会誌*. 11(1), 50-58. 2019.

成人看護学領域

Adult Nursing

成人看護学領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護、感染看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



杉山 琴美 河島 光代
脇坂 浩 佐藤 直美 影山 葉子

研究内容

がん看護	がん看護：がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析し、質の高い療養生活支援のための看護を検討する。
慢性看護	慢性疾患患者の疾患のとらえ方や療養生活におけるセルフケアについて分析し、効果的な看護介入を検討する。
急性期看護	クリティカルな状況における患者やその家族の体験を明確にし、回復や安寧に導く看護援助について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。
家族看護	成人期・老年期の患者とその家族を1つのユニットとしてとらえ、家族のもつ健康問題に対する看護について検討する。
感染看護	効果的な感染予防と迅速な対処ができる感染制御体制の構築と看護技術の開発、隔離を受けた感染患者への適切な看護援助について検討する。

教員の研究テーマ・主な業績

- 佐藤 直美 (教授)・・・がん看護, 遺伝看護, 慢性看護
- 1) 佐藤直美:慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 健康信念.成人患者への教育的アプローチ.相談技術.鈴木久美,旗持知恵子,佐藤直美(編)成人看護学慢性看護第3版,南江堂,pp81-83,101-110,2019.
 - 2) 佐藤直美:成人期にある人を看護するための基本的な考え方 成人学習を支援する.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編)成人看護学概論第3版,南江堂,pp170-174,2019.
 - 3) Sato N, Sato T, et al.: Genetic aspects of smoking behavior in the Japanese population, Preedy VR, ed. Neuropathology of drug addictions and substance misuse Vol 2. London, Elsevier, 1046-1054, 2016.

脇坂 浩 (教授)・・・急性期看護, 感染看護

- 1) Wakisaka H: Inspection of the situation of the intraoral state and opportunistic pathogens in non-ingesting patients due to specialized mouth care. Journal of Japanese Association of Infection Control Nursing,9(1),1-9,2020.
- 2) 脇坂浩,武並元紀:ICUで術後せん妄を発症した患者への看護介入に関する事例検討.三重県立看護大学紀,23,1-9,2019.
- 3) 脇坂浩:感染症 奥野茂代(監),大西和子(監),百瀬由美子(編)老年看護学概論と看護の実践第6版,ヌーヴェルヒロカワ,pp360-369,2019.

影山 葉子 (准教授)・・・家族看護(退院支援, 家族の代理意思決定支援, ジェンダー関連)

- 1) 影山葉子, 三部倫子:「LGBTの家族」への家族看護の「これまで」と「これから」, 第39回日本看護科学学会学術集会交流集会, 金沢, 2019.
- 2) Kageyama Y, Asano M: Thinking about the patient's wishes: practical wisdom of discharge planning nurses in assisting surrogate decision-making. Scandinavian Journal of Caring Sciences, 31(4), 796-804, 2017.

老人看護学領域

Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



金盛 琢也 鈴木 みずえ 内藤 智義

研究内容

認知症をもつ高齢者がよりよく生きるための看護実践方法の開発	認知症のために記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、その人のケアに関わる看護師も含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念に地域・急性期病院・高齢者施設のあらゆる場における認知症看護のあり方を追求していきます。
介護予防に関する看護実践の開発	高齢者になると老化現象に伴う肉体的・精神的な仕組みや働きが低下して、特有の症状・病態、さらに心身の障害に陥る老年症候群(生活機能低下、転倒骨折、排泄障害、摂食嚥下障害など)を起こしやすくなり、看護の専門性の高い実践が高齢者の生命予後にも影響しています。転倒・骨折などの老年症候群の原因分析やそれらを引き起こす痛みのアセスメント、さらには予防に関する看護方法を開発しています。
認知症高齢者への排他ケアモデルの構築に関する研究	高齢者施設における看護職・介護職が実践している認知症高齢者の排他障害への取り組みから、各専門職のケアの内容、専門職種間の連携・協働が作りだすケアの内容を明らかにし、認知症高齢者が「その人らしく、心地よく排泄する」ことを支えるケアとはどのようなものなのか、ケアモデルの全体像を考察するよう取り組んでいます。
在宅高齢者の疼痛の実態、疼痛が及ぼす日常生活への影響	その他にも、高齢者のその人が本来もっている力や心身の機能の維持・改善を支えるための看護、保健・医療・福祉システムの中での多職種連携における看護専門性の明確化もまた、取り組むべき課題と位置付けています。

教員の研究テーマ・主な業績

鈴木 みずえ(教授)・・・高齢者の介護・転倒・認知症予防のための看護介入方法・ケアシステムの開発、高齢者のQOLの向上のための看護介入・看護ケア効果評価

- 1) 鈴木みずえ,吉村浩美,宗像倫子,鈴木美恵子,須永訓子,勝原裕美子,桑原弓枝,水野裕,長田久雄:急性期病院内の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアをめざした看護実践自己評価尺度の開発,日本老年看護学会誌,20,36-46,2016.
 - 2) Suzuki M, et al,Effects of a Fall-Prevention Program for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care, International Journal of Gerontology,523-528,2019
- 金盛 琢也(講師)・・・再入院予防, 遠隔モニタリング, 世代間交流
- 1) 金盛琢也, 亀井智子, 山本由子: 都市部多世代交流型タイププログラムにおける参加高齢者特性および活動内容別の世代間交流の評価. 日本世代間交流学会誌 6(1): 83-88, 2017.
 - 2) Kamei T, Yamamoto Y, Kanamori T, Nakayama Y: Detection of early-stage changes in people with chronic diseases; A telehome monitoring- based telenursing feasibility study. Nursing & Health Sciences 20(3):313-322, 2018.

母性看護学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在日外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



東 真梨子 齊本 美津子 木村 幸恵
安田 孝子 武田 江里子

研究内容

女性へのケア	妊娠糖尿病になった女性の分娩後の経過と医療チームの支援のあり方、子育て中の母親のおしゃれ意識と子どもへの思い、母親が出産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などに取り組んでいます。
子育て支援	母親の養育者としての発達、周産期の女性の気質に応じた支援およびSAT法(Structured Association Technique)を用いた支援を研究しています。在日外国人も含む母子・家族を対象としています。

教員の研究テーマ・主な業績

安田 孝子 (教授)・・・妊娠糖尿病既往のある女性の出産後の支援、母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルチリトメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が出産後に再喫煙する実態、月経周期と生活行動と精神的要因の関連

- 1) 安田孝子: 子どもが1歳6か月と3歳の時の母親の状況, 第33回日本助産学会学術集会, 福岡. 2019. 3. 2-3.
- 2) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y: Relationship between maternal fashion consciousness and mothers feelings about their child rearing among Japanese women who raise their 18-month-old child. 31th International Confederation of Midwives, Toronto, Canada, 18-22 June 2017.
- 3) 安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子: 月経周期と生活行動要因・精神的要因との関連, 静岡県母性衛生学会誌, 6, 11-14, 2016.

武田 江里子 (教授)・・・母親の養育者としての発達に関する研究、周産期の母親の気質に応じた支援、SAT (Structured Association Technique:構造化連想)法を用いた子育て支援、在留外国人の母子支援、尺度開発

- 1) 武田江里子, 木村幸恵, 田坂満恵: 在日外国人である母親の望む子育て支援と影響要因-国籍・気質・「愛着-養育バランス」尺度との関連-, 母性衛生, 59(4), 770-776, 2019.
- 2) 武田江里子, 他: 乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着-養育バランス」に影響する内的要因-母親の被養育体験と内的作業モデルの影響-, 日本看護科学会誌, 36, 71-79, 2016.
- 3) Takeda E, et al: The development of a maternal caregiving system: Based on changes in the attachment-caregiving balance scale up to 6-7 months postpartum, Journal of Japan Academy of Midwifery, 27, 237-246, 2013.

小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、子どもの成長・発達や健康問題に関する専門的な知識を学習するとともに、家族を中心とする視点から子どもの成長発達や健康管理に関する看護および家族への支援を学びます。また、少子高齢化等さまざまな社会の変化に対応するために、子どもを取り巻く環境と子どもの健康、あるいは小児看護の現状と課題についても学習し、社会に求められる看護職の役割について検討します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



坪見 利香 宮城島 恭子

研究内容

障害のある子どもの看護	発達障害児や医療的ケア児など様々な障害をもつ子どもとその家族への看護援助のあり方について検討しています。
小児がん・思春期の看護	がんなど慢性疾患をもつ子どもの思春期・成人期への発達過程を見据えて、健康管理、学校を中心とする社会生活の支援、長期的支援のあり方を検討しています。
看護学教育に関する研究	小児看護学に関する効果的な教育方法や、医療と教育の連携に関する教育方法を検討しています。

教員の研究テーマ・主な業績

坪見 利香 (准教授)・・・障害をもつ子どもにかかわる看護職への支援

- 1) 坪見利香・水野智美:看護師・医療スタッフのための発達障害傾向のある子どもの診療サポートブック, 診断と治療社, 2020.12
- 2) 大塚敏子・巽あさみ・坪見利香:発達上気になる子どもの保護者支援に関する保健師-保育士連携活動自己評価尺度の開発, 日本地域看護学会誌22(1), 4-12, 2019.
- 3) 発達障害児に対する看護実践に関する研修プログラムの開発-短期的効果の検証-, 障害理解研究18, 1-10, 2017.

宮城島 恭子 (講師)・・・小児がん看護, がんサバイバーへの支援, 思春期看護

- 1) 宮城島恭子, 他:小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス - 思春期から成人期にかけて病気を自身の生活と心理面に引き受けしていくことに着目して-, 日本看護研究学会雑誌, 40(5), 747-757, 2017.
- 2) 宮城島恭子, 他:小児がんをもつ子どもの学校生活の調整に関する意思決定プロセスと決定後の気持ち-活動調整と情報伝達に焦点を当てて-, 日本小児看護学会誌, 26, 51-58, 2017.
- 3) 宮城島恭子:学童期・思春期の小児がんを発症した思春期患者の医療に関する認識と医療者への意思表示, 小児がん看護, 13(1), 51-60, 2018.

地域看護学領域

Community Health Nursing

地域看護学領域は公衆衛生看護学と在宅看護学の2分野で構成されます。公衆衛生看護学は患者・家族を対象とした看護から、社会で暮らし活動する人々、「集団」を対象として社会に働きかける特徴があります。在宅看護学では、疾病や障害を抱えながら地域で暮らす療養者の生活を支援することを目的に、看護実践や包括的な社会システムに関する課題を扱います。月1回のゼミと個別指導を通じて研究能力を育成します。



高部さやか 影山麻弥 日吉恭則 影山淳
鳥本靖子 渡井いずみ 山本真実

研究内容

公衆衛生看護	地域における子育て支援、生活習慣病対策、アルコール依存症対策、学校保健等における看護活動や、その基盤となる地域や社会システムの構築と評価、保健師教育に関する研究。
産業看護	働く人々を対象とした保健活動。特に両立支援、職場のメンタルヘルス、地域職域連携に関する研究。
在宅看護学分野	在宅療養に関する保健医療福祉の研究課題(ヘルスサービスリサーチ)に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

渡井 いずみ (教授)・・・子育てと仕事の両立(ワーク・ライフ・バランス)、がんと就労,アルコール対策,産業看護,保健師教育

- 1) Randomized controlled trial of Web-based weight-loss intervention with human support for male workers under 40.: Itsuko Ozaki, Izumi Watai, Mariko Nishijima, Noboru Saito, Journal of Occupational Health, 61, 110-120, 2019.
- 2) 渡井いずみ, 和泉京子, 岩佐真也, 土井有羽子, 佐藤千賀子, 松尾和枝: 保健師教育課程の質をする評価基準に関する会員校調査報告, 保健師教育, 3, 39-42, 2019.

山本 真実 (准教授)・・・母子保健(継続的な子育て支援, 子ども虐待予防, 発達支援), 学校保健, 行政保健師が行う対話的支援, 質的研究

- 1) Mami Yamamoto: How Children with Autism Spectrum Disorder Perceive Themselves: A Narrative Research, Japan Journal of Nursing Science, Early View, 2021. doi:10.1111/jjns.12420.
- 2) 山本真実, 浅野みどり, 野村直樹: 療育教室に通う子どもの成長を時間のことばで語る-「等価な時間」というポリフォニー, 日本看護研究学会雑誌, 43(4), 733-744, 2020, doi:10.15065/jjsnr.2020228087.

鳥本 靖子 (准教授)・・・地域で暮らす療養者・家族介護者への支援、家族介護者への支援と援助者の価値観、ケアコーディネーションと社会資源、在宅看護・介護のヘルスサービスリサーチ

- 1) 鳥本靖子、保母恵、眞崎由香、松澤明美: 地域包括ケアシステムにおける人々の「自助」の意識について: 今後、高齢期を迎える人々に着目して, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月
- 2) Yasuko Torimoto-Sasai, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata and Noriko Yamamoto-Mitani: Female family caregivers face a higher risk of hypertension and lowered estimated glomerular filtration rates: a cross-sectional, comparative study, BMC Public Health 2015, 15:177

研究内容

修士論文コース	精神保健・医療・福祉の発展に資する幅広いテーマについて、学生の興味関心や経験を考慮しながら柔軟に対応しています。以下は、これまでに本研究室で実施している研究テーマの一例です。 ・リカバリーとコプロダクション(共同創造)の考え方に基づく看護実践に関する研究 ・幻覚・妄想に対する認知行動技法(CBT-p)の効果評価 ・精神科訪問看護における支援技術の開発と評価 ・超音波診断装置(エコー)を用いた精神科臨床における便秘の評価と便秘ケアの開発
高度実践看護コース(設置準備中)	精神看護専門看護師(CNS)に求められる6つの技能を養成しますが、研究面ではエビデンスの正しい理解と臨床応用を中心に指導を行います。希望に応じて、修士論文コースと同等な研究活動も行い、エビデンスを創るプロセスも指導します。

教員の研究テーマ・主な業績

木戸芳史(教授)

- 1) Kido Y, Kawakami N, Kayama M. Comparison of hospital admission rates for psychiatric patients cared for by multidisciplinary outreach teams with and without peer specialist: a retrospective cohort study of Japanese Outreach Model Project 2011-2014. BMJ Open. 8(8). e019090. 2018
- 2) Tsunoda A, Kido Y, Kayama M. Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services: Comparison of care between higher-functioning and lower-functioning groups. Japan Journal of Nursing Science. 15(2). 181-191. 2018
- 3) Kido Y, Kayama M. Consumer providers' experiences of recovery and concerns as members of a psychiatric multidisciplinary outreach team: A qualitative descriptive study from the Japan Outreach Model Project 2011-2014. Plos One. 12(3). e0173330. 2017
- 4) Kayama M, Kido Y, Setoya N, Tsunoda A, Matsunaga A, Kikkawa T, Fukuda T, Noguchi M, Mishina K, Nishio M, Ito J. Community outreach for patients who have difficulties in maintaining contact with mental health services: longitudinal retrospective study of the Japanese outreach model project. BMC psychiatry. 14(1). 311. 2014
- 5) Kido Y, Kawakami N, WMHJ survey group. Sociodemographic determinants of attitudinal barriers in the use of mental health services in Japan: findings from the World Mental Health Japan Survey 2002-2006. Psychiatry and clinical neurosciences. 67(2). 101-109. 2013
- 6) Kido Y, Kawakami N, Miyamoto Y, Chiba R, Tsuchiya M. Social Capital and Stigma toward People with Mental Illness in Tokyo, Japan. Community mental health journal. 49(2). 243-247. 2013



木戸 芳史 増田 郁美

高度看護実践コース

老年看護学

【本コースの目的】

高度看護実践コース(老年看護学)では、高齢者とその家族がよりよく過ごし、最期までよりよく生きることを支える看護実践を学修します。

わが国は世界一の長寿国であり、2025年には国民の4人に1人が後期高齢者になると予測されています。仕事や社会貢献、趣味などで活躍し自立している高齢者も増加していますが、一方で加齢現象に加えて認知症等の様々な健康障害によってケアを要する高齢者も増加しています。高度看護実践コース(老年看護学)では、このような多様な健康状態にある高齢者に対する看護のあり方を探求します。

高齢者への看護は、急性期病院や療養病床、介護施設、在宅等の様々な場において提供されています。それぞれの実践の場の特性や高齢者の一人ひとりの人生のあり方を踏まえて、最期まで豊かな人生を送るための専門性の高い老年看護の実践や倫理観を探究します。老年看護の全体の質の向上をめざして、多くの看護職が本コースで学修し、それぞれの実践の場で活躍されることを期待しています。

【本コースの特徴】

本コースは老人看護専門看護師教育課程(38単位)として認定を受け、令和3年度より開設された新しいコースです。本コースの修了により、日本看護協会が認定する老人看護専門看護師の受験資格を得ることができます。

現在は3名の大学院生が本コースに在籍し、病院等で勤務を続けながら高齢者への看護実践について学習を続けています。



金盛 琢也 鈴木 みずえ 内藤 智義

お問い合わせ

老年看護学 金盛琢也

TEL.053(435)2509

E-mail: takukana@hama-med.ac.jp

授業科目・単位数

授業科目		単位数	摘要
共通科目A	看護研究	2	共通科目A 8単位以上履修
	看護教育論	2	
	看護理論	2	
	看護倫理	2	
	看護政策論	2	
共通科目B	病態生理学	2	共通科目B 6単位履修
	フィジカルアセスメント	2	
	臨床薬理学	2	
専門科目	高齢者看護学概論	2	専門科目 28単位履修
	高齢者アセスメント論	2	
	高齢者疾病・治療論	2	
	高齢者・家族看護論	2	
	高齢者地域システム論	2	
	高齢者看護学演習Ⅰ(認知症)	2	
	高齢者看護学演習Ⅱ(急性期)	2	
	認知症看護実習	6	
	急性期看護実習	4	
	高齢者看護学課題研究	4	

履修単位数: 42単位以上

上記科目の他、月2回の研究ゼミ等により、研究指導が行われます。研究ゼミでは論文コースの大学院生と合同で活発なディスカッションが行われています。

【実習病院】

国立長寿医療研究センター、聖隷三方原病院、西山病院等

Midwifery Course

助産師養成コース

助産学

助産師 Midwife ... Mid + wife

助産師 (Midwife)とは、女性とともにいる女性を意味しています。周産期の母子・家族はもちろんですが、女性とそこに携わる人々を生涯にわたって支援していく専門職です。本学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした教育を行います。母子とその家族や地域の人々に寄り添い、いかなる対象のニーズにも応え得る高度な診断能力及び科学的根拠に基づいた質の高い実践能力、研究能力、教育力を身に付けることにより、マネジメント力を培い、地域の周産期医療の充実、国際的視野を持って母子保健の発展に貢献でき、対象をよりよい状態に導くことのできる人材の育成を目指しています。



齊本 美津子 安田 孝子
東 真梨子 武田 江里子 木村 幸恵

授業科目及び単位数							
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	必修・自由		
					必修	自由	
共通科目	共通科目	看護研究	1	2	○		
		看護教育論	1	2	○		
		看護理論		2		○	
		看護倫理		2		○	
		看護政策論		2		○	
		看護管理		2		○	
		看護コンサルテーション論		2		○	
		フィジカルアセスメント		2		○	
		病態生理学		2		○	
		臨床薬理学		2		○	
		免疫学		2		○	
		病理学		2		○	
				4単位			
専門科目	助産学	助産学特論Ⅰ 概論/ヒューマン・セクシュアリティ	1	2	○		
		助産学特論Ⅱ 生殖生命倫理/遺伝学	1	2	○		
		助産学特論Ⅲ 周産期学	1	3	○		
		助産学特論Ⅳ ハイリスク	2	1	○		
		助産学特論Ⅴ 助産診断技術学	1	3	○		
		助産学特論Ⅵ 教育方法論/ソーシャルスキル	1	2	○		
		助産学特論Ⅶ 助産管理学	1	2	○		
		助産学特論Ⅷ 地域/乳幼児/DV・虐待	1	3	○		
		助産学特論Ⅸ ウィメンズヘルス/多文化共生	2	2	○		
		助産学演習Ⅰ 助産診断技術学/東洋医学	1	3	○		
		助産学演習Ⅱ 健康教育	1後~2前	3	○		
		助産学実習Ⅰ 分娩介助/継続事例	1	11	○		
		助産学実習Ⅱ 助産院/継続事例	1後~2前	5	○		
		助産学実習Ⅲ ハイリスク	2	6	○		
		助産学実習Ⅳ 地域	2	3	○		
助産学実習Ⅴ マネジメント	2	1	○				
				52単位			
研究	研究	助産学研究	1	1	○		
		課題研究	2	4	○		
				5単位			
修了に必要な単位数				計61単位以上			

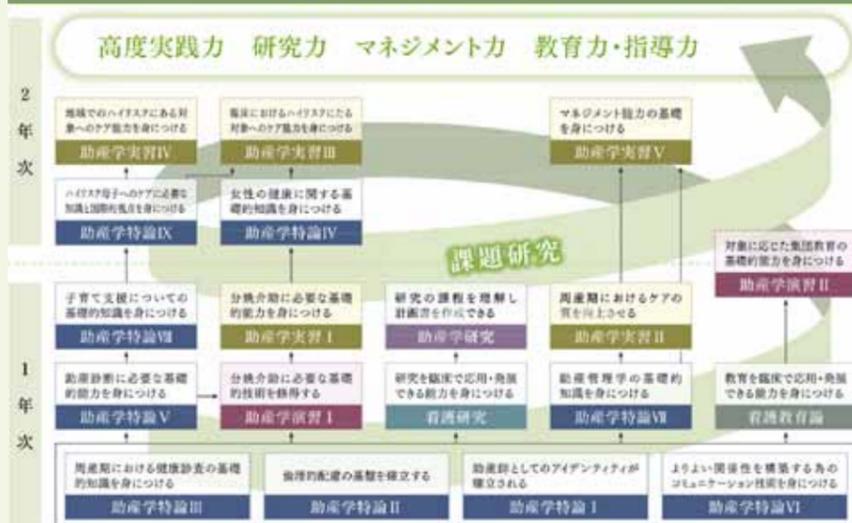
履修単位数 61単位 ※本コースには長期履修制度は適応できません。

カリキュラムの特徴

1年次に助産師として必要な基礎的能力及び研究のための基礎的能力を身に付けます。課題研究は、自分の興味のあるテーマを絞り込み自由に行います。全ての科目の中で問題意識を持って取り組むことで、自らの課題の明確化及び研究の必要性について学び、課題研究を通して高度実践力・研究力・マネジメント力・教育力・指導力の統合を図ります。演習・実習の中では、在留外国人も含む様々な対象へのケアとして5つの健康教育を実施します。必修単位の半数を演習及び実習に費やしており、実践力が強化できるカリキュラムとなっています。

修了後は、
 ・修士(看護学)
 ・助産師国家試験受験資格
 ・受胎調節実地指導員申請資格
 ・新生児蘇生法「専門」コース(A)認定が取得できます

対象の力を引き出せる助産師



【実習施設】

- 病院**
 浜松医科大学附属病院
 浜松医療センター
 木村産科・婦人科
 磐田市立総合病院
 聖隷浜松病院
- クリニック**
 毛利助産所
 くさの助産院
 矢島助産院
 川測助産院
 和助産院
- 助産院**
 よこさわ助産院
- 地域**
 浜松市
 子育て支援広場
 静岡県女性相談センター
 子ども虐待防止センター
 いぬかい小児科
 思春期健康相談室
 ムンド・デ・アレグリア学校
 しんえい保育園

Message From Graduates

修了生のことば

Hattori Hiromi



令和3年3月修了
 基礎看護学
 (基礎看護学領域)
 修士論文コース
 服部洋美

急性期医療の現場では患者の生命と安全を優先するため「やむを得ず」身体拘束を行う現状の中、私は看護師長として身体拘束を減らすにはどうしたらいいか、と対策を模索していました。そんな折、片山教授から身体拘束最小化への取り組みと研究を合わせて実践してみてもどうかとアドバイスをいただき研究をスタートしました。必要なデータは4年分に及びましたが、身体拘束が低減していく結果に喜びを感じました。片山教授をはじめ、先生方にはデータのとり方や分析方法など一つ一つ懇切丁寧にご指導いただき、心から感謝しております。また研究にご協力いただいた皆様には、研究が終了した現在も身体拘束最小化への取り組みが継続されていることに心より称賛と感謝を申し上げます。

私にとって大学院での修学は、仕事へのやりがいや活力の原動力になっていたと感じます。ゼミや授業では、職種・役職・年齢など関係なく、互いの意見を率直に言い合える雰囲気がとても居心地よく、仲間から得た知識や考え方は、時に現場での様々な課題解決の糸口になっていました。

また大学院では倫理や教育について学習する機会もあり、多くの看護理論に触れ原点を学習することで、自身の看護観が深められる貴重な経験となりました。大学院での学び直しは私にとって大きな自信となりましたし、今後は様々な局面で得た学びを応用することで、より良い看護の提供につなげられると実感しています。

Takao Masashi



令和3年3月修了
 成人・老人看護学
 (成人看護学)
 修士論文コース
 高尾昌資

附属病院で理学療法士として勤務する中で、研究に関わることや大学院への進学について考えることが多くなってきていました。診療において食道癌の手術を受ける患者さんに関わることが多かった私は、患者さんが手術後に術前の活動的な生活に戻るために自分には何が出来るのかを考えるようになっていました。そんな時に、上司より当大学院を紹介いただき進学することを決めました。

理学療法士が、看護大学院でやっていけるのかという不安はありましたが、実際に入ってみると得られるものは非常に多くありました。特論やゼミなどにおいて職種や職場環境の違う方々との議論はとても有意義で楽しいものでした。リハビリ職種以外の医療職目線で質問や意見をもらい、新たな視点を持てるようになったと感じます。また、理学療法士の立場ではどう考えるかなどの意見を求めてくれることも多く、職種間での意見や考え方の違いなどを知ることで他職種や環境の違う医療現場を理解するきっかけにもなったと感じています。論文を作成する過程では、多くの方に助言頂きながら一つの成果をまとめることができました。自分が今まで取り組んできたことを整理することで、新たな臨床疑問が沸き次の研究疑問に繋がっています。研究は臨床を豊かにしてくれる手段であると再認識しました。

現在では、大学院で学んだことを活かしながら診療にあたるとともに、食道癌の手術に臨む患者さんのよりよい回復を援助するリハビリテーションの提供に向けて研究を継続しています。

Shinmura Mai



令和3年3月修了
 助産学
 (助産学領域)
 助産師養成コース
 新村麻衣

私は、小学生からの助産師になるという夢を叶えるために大学卒業後当大学院へ進学しました。入学当初は目指していた分野の勉強ができることに嬉しさを感じながらも分娩介助実習や健康教育などが並行して行われる日々には圧倒されていました。濃厚で忙しい毎日でしたが先生方の熱心なアドバイスや5人の同期、先輩後輩の支えにより乗り越えられました。同期や先生方と意見交換をし合い、刺激を受け、励まし合いながら過ごした2年間は私にとって宝物です。

当大学院の魅力は、2年間かけて様々な視点から妊娠・出産はもちろん、女性の一生に関わる助産師の役割を知り、技術を身に付けられるところです。実習では、病院・診療所・助産院にて10以上の分娩介助が経験できます。加えて、超音波検査、小児科クリニック、遺伝・不妊外来、地域母子保健事業などで実習を行い、助産師として必要な知識や技術を幅広く習得することができます。健康教育では、小学生・高校生への性教育、母親学級、施設の入所者、外国人等様々なニーズに合わせた指導案を作成し、実行しました。必要な知識をどう印象に残るよう伝えられるか常に試行錯誤していましたが、健康教育での学びは今後の指導時に役立つと思います。課題研究は、自身の気になるテーマを掲げ、研究手法等基本的な部分から丁寧な指導を受けて完成させていきます。2年間の学びを生かし、女性の一生に関わる助産師の役割を果たしていきたいです。



国立大学法人

浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053(435)2111

<http://www.hama-med.ac.jp/>

問い合わせ先

入試に関すること 入試課入学試験係

TEL.053(435)2205 FAX.053(433)7290

E-mail: nyushi@hama-med.ac.jp

大学院に関すること 学務課大学院係

TEL.053(435)2204 FAX.053(435)2233

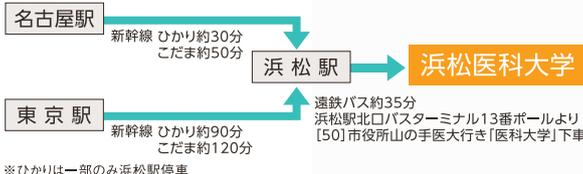
E-mail: daigakuin@hama-med.ac.jp

LOCATION



ACCESS

交通(新幹線・バス)



自動車

